

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 科学研究費助成事業基盤研究(c)「都市ガバナンスからみた 19 世紀ロンドンの水道事業の研究」(研究代表者:唐澤達之)による研究</p> <p>2023 年度より 4 年の研究期間で標記研究課題が科学研究費助成事業に採択されたので、研究計画にしたがい研究を進めた。20 世紀末以降現代都市は、ガバメントの相対的後退という現実を背景に、都市基盤整備のあり方について根本から再考を迫られている。本研究は、こうした現代的課題に歴史的観点からアプローチするために、歴史上近代化にともなう都市問題が集約的に表れた 19 世紀のロンドンにおける基盤整備、特に水道事業を取り上げ、都市ガバナンスという観点から再検討することを目的としている。近世以降 1902 年の首都水道法によって公的管理下に置かれるまでロンドンの上水事業を担っていた民営水道会社は、従来の研究では上水事業の改革＝公営化に対する抵抗勢力として批判的に評価されてきた。しかし、本研究では、水道事業に関わる多様なアクターの相互作用のなかに民営水道会社を位置づけてその歴史的役割について再検討し、近代都市においてガバナンスが問題となる歴史的文脈を明らかにし、現代都市におけるガバナンスの歴史的位相を考える手がかりを得ることを企図している。</p> <p>今年度は、研究計画に従い、2023 年 8 月後半に水道会社の経営史料の多くが所蔵されているロンドン・メトロポリタン・アーカイヴズにおいて、チェルシー水道会社及びイースト・ロンドン水道会社の 19 世紀の理事会議事録と会計記録をデジタルカメラによる撮影で収集し、秋期から冬期にかけて、史資料の分析を行った。本研究は、本学の研究奨励費にも採択されており、来年度中にその成果の一部を発表する予定である。</p> <p>(2) 科学研究費助成事業基盤研究(b)「工業化以前の都市の機能と経済発展:「長期の」18 世紀イギリスを中心として」(研究代表者:山本千映 [大阪大学])による研究</p> <p>当初2020年度より3年間の研究期間で科学研究費助成事業に採択された標記研究課題であったが、コロナ禍による研究遂行の制限のため、研究期間が1年延長されたので、今年度も引き続き、研究分担者として参加した。本研究では、イギリス都市史の個別実証研究の成果を総合し、都市に居住することの効用という観点から都市化のメカニズムについて定性的な分析を行うとともに、工業化に先立つ都市化の要因を可能な限り数値データでそろえ、計量分析を行うことを目的とする。</p> <p>昨年引き続き本共同研究で対象とする54都市の給水システムの整備状況について、2次文献を中心に整理する作業を進めた。2023年度の研究会(2024年3月20・21日大阪大学で開催)では、中野忠「ジョン・オグルビーとイギリス地図—都市ネットワークと情報—」、山本千映「54都市の比較に向けて」、唐澤達之「19世紀ロンドンの水道会社に関する研究の一動向」、永島剛「1783年におけるイングランドの医師分布」、服部正紀「戦費調達と証券市場: The Adventurers' Act 1642」、磯野将吾「19世紀中葉におけるイギリスの老人救済: London Aged Poor Society の分析」、道重一郎「18世紀イングランド南東部中規模都市の社会的機能—領主都市ルイスの収支記録を中心に—」、大橋里見「イングランド発展期の都市と競売/人」、以上の8報告が行われ、活発な議論に参加することができた。</p> <p>(3) 聖人崇敬の歴史に関する研究</p> <p>ヨーロッパを中心にアジアやアメリカ、アフリカにも視野を広げて、世界におけるキリスト教の聖人崇敬の歴史的意味の展望を行い、今後の個別研究進展に役立つ基本書の出版を目的とした研究会が、河原温氏(放送大学教授)と池上俊一(東京大学名誉教授)によって昨年度立ち上げられ、イングランド王国の守護聖人である聖ジョージについて</p>	

<p>の研究を担当した。今年度は第3回、第4回の研究会が開催され、いずれにも出席し、有益な知見を得ることができた。聖ジョージがイングランド王国の守護聖人となる経緯、イングランド王国の守護聖人として果たした役割、中近世の都市やギルドにおける聖ジョージ崇敬の帰趨などについて研究を進め、原稿「国家を護る聖人——中世後期イングランドにおける聖ジョージ崇敬」を執筆し提出した。本研究会の研究成果は、2024年度中に名古屋大学出版会から刊行の予定である。</p> <p>(4) 学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会の企画運営、会誌『比較都市史研究』の編集刊行、会計の管理などに関わった。</p> <p>(5) 大学行政関連業務</p> <p>副学長（研究担当）として、学内の種々の委員会を主宰し、全学的な観点から本学の改革・発展の推進に関わった。2023年度は特に、第3期中期計画の初年度にあたり、新たな計画に着手した。研究環境等の整備のためのアンケートの実施や、研究データベース構築の検討を進めたほか、本学の重要な地域貢献・地域連携事業を担う、まちなか教育活動センター運営委員会と学生ボランティア活動支援室の事業を、委員長（室長）として推進した。</p>
<p>2 その他の事項</p>
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1)研究関連</p> <p>今年度より採択された科学研究費助成事業基盤研究(c)「都市ガバナンスからみた19世紀ロンドンの水道事業の研究」（研究代表者：唐澤達之）を、研究計画にしたがい研究を進める。</p> <p>(2) 大学行政関連</p> <p>2024年度は、副学長（研究担当）の任期2年目にあたるので、第3期中期目標・中期計画（2023～2028年度）に基づき、本学の研究活動、地域貢献・地域連携事業全般を推進することが主な課題となる。</p>